

目 次

1. 調 査 概 要	1
2. 調査対象地域図	2
3. 凡 例 解 説	3
4. 植 生 調 査 表	17
5. 資 料 リ ス ト	92
6. 調査担当者名簿	92

1 調査概要

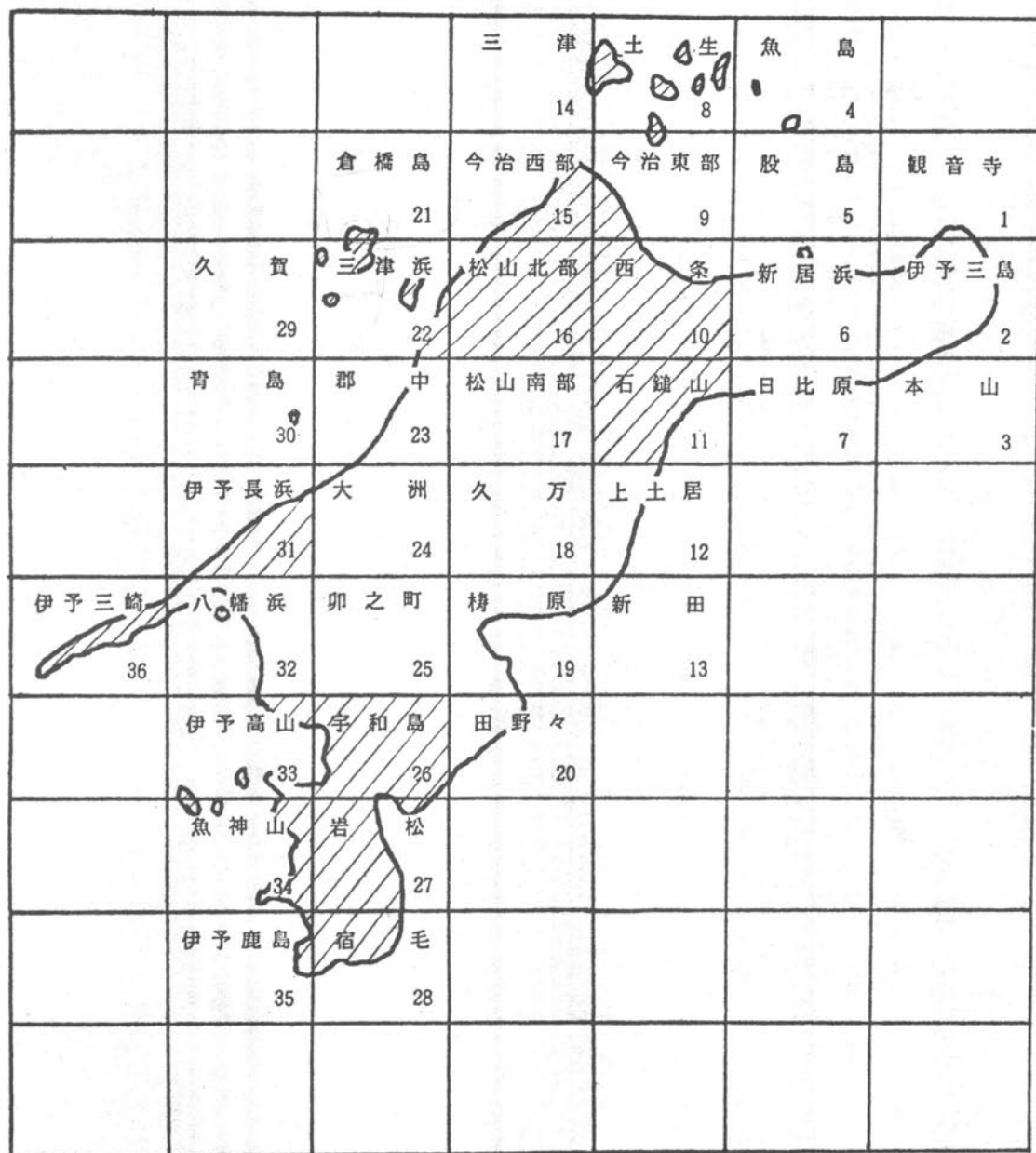
(1) 調査地域の範囲

瀬戸内海国立公園，足摺宇和海国立公園及び石鎚国立公園のうち，愛媛県に属する部分の 5 万分の 1 地形図 17 枚に含まれる地域の植生を調査した。この中の植生は，亜高山帯自然植生が 1，同代償植生が 2，ブナクラス域自然植生が 3，同代償植生が 1，ヤブツバキクラス域自然植生が 6，同代償植生が 7，そのほかの植生が 12，計 32 が含まれている。

(2) 調査の実施方法

上記の調査範囲を東部，中部，南部の 3 地域に分け，調査者 7 名が各地域を分担して現地に赴き，前記 32 の植生について実地に調査した。

2 愛媛県調査対象地域図



伊予三島 — 1/5万 地形図名
2 — 地図番号

3 凡例解説

1 シコクシラベ群集

常緑針葉高木林

石鎚山及びそれに続く山地の最低部は海拔1,500mぐらい,最高部は1,980mまで,大体において1,700mあたりから,それ以下のウラジロモミと交替し,1,800mあたりから純林をつくる。

主要な構成種は, T₁層はシコクシラベ, T₂層はダケカンバ, ナナカマド, ナンゴクミネカエデ, S層はイシヅチザサ, イシヅチキイチゴ, クロヅル, H層はイシヅチザサ, イシヅチキイチゴ, ミヤマモミジイチゴ, ハリブキ, コミヤマカタバミ, *Calamagrostis* spp., テバコワラビ, シラネワラビ, ミヤマワラビ, マンネンスギ, ヒメスギラン, M層は蘚苔類, 地衣類, 等である。

県内では, 石鎚山脈の東端笹ヶ峰と西端石鎚山方面に分布する。

この大部分は, 国有林であり, 国定公園内であるから, 保全は十分である。

2 ササ群落

この調査地のものは, S層にわずかの低木があるが, これは1965年頃にイシヅチザサがいっせいに開花枯死した際に飛散してきたダケカンバの種子の実生によるもので, ダケカンバの少ない植分を調査し, ササ群落として記録した。

県内には, ササ群落の発達する地域が多く, 石鎚山系の海拔1,500m以上及び大野ヶ原・四国カルスト・大川嶺方面に広大な面積をおおっている。それらのSasaは, イシヅチザサ, シコクザサ, ミヤコザサ類等である。

イシヅチザサ群落にあるものは, リンドウ, アキノキリンソウ, イヨフウロ, タカネオトギリ, トゲアザミ, シモツケソウ, ミヤマムグラ, ウスユキムグラ, バイケイソウ, ホソバシュロソウ, ショウジョウスゲ, ススキ, *Calamagrostis* spp., 等である。

これらのササの大群落は, 国定公園景観上の一要素である。

3 ダケカンバ群落

夏緑高木林

石鎚山脈の海拔 1,700 m ぐらい以上の斜面に発達する。調査表に記載のものは、この群落の典型的な一例である。

主要な構成種は、T₁層はダケカンバ、コハウチワカエデ、ミズナラ、ヒメシヤラ、T₂層以下にはイシヅチザサを主とし、ナナカマド、ナンゴクミネカエデ、ミヤマモミジイチゴ、イシヅチキイチゴ、イヨフウロ、アキノキリンソウ、タカネオトギリ、*Calamagrostis*, *Carex* 等がある。

県内には、石鎚山脈のみにある。

この群落は、国有林、国定公園内にあり、保全は十分である。

4 スズタケブナ群団

夏緑高木林

海拔 1,100 m ぐらいから 1,700 m ぐらいの稜線及び斜面に発達する。

主要な構成種は、T₁層はブナ、ミズナラ、コハウチワカエデ、ウラジロモミ、T₂層はシロモジ、タンナサワフタギ、ヨグソミネバリ、ヒメシヤラ、ウラジロモミ、S層はイシヅチザサ、シコクザサ、ミヤコザサ、スズタケ、ケクロモジ、シロモジ、コガクウツギ、H層は *Sasa*、ヤマアジサイ、ツルシキミ、キヌタソウ、テンニンソウ、シコクブシ、ツタウルシ、イワガラミ、ホウチャクソウ、チゴユリ、*Carex* spp., *Calamagrostis* spp., 等である。

県内のブナ林は、石鎚山脈を始め、大野ヶ原・大川嶺・四国カルスト、皿ヶ嶺、高縄山等にすぐれた大ブナ林がある。

ブナ林は、そのほとんどが国有林、国定公園内にあり、また特に県中部の小屋山は県自然環境保全地域に指定され、それぞれ美林が保護されている。

5 ウラジロモミ群落

常緑針葉高木林

海拔 1,300 m ぐらいから 1,700 m ぐらいまでの斜面、土壌はやや湿気を帯び

ていることが多い。

主要な構成種は、T₁層はウラジロモミ、T₂層はウラジロモミ、コハウチワカエデ、タンナサワフタギ、シロモジ、コバノトネリコ、S層はダイセンミツバツツジ、コヨウラクツツジ、ヨグソミネバリ、ヤマウルシ、H層はイシヅチザサ、アキノキリンソウ、トゲアザミ、オタカラコウ、イタドリ、テキリスゲ、等である。

県内では、石鎚山脈を始めとし、赤石山脈、大野ヶ原・四国カルスト地帯等に広く分布し、特有の相観はすぐれた景観を呈する。

それら群落の多くは、国有林、国定公園内にあり、保全は十分である。

6 ヒノキ群落

常緑針葉高木林

急峻な稜線、断崖等の土地的極相林である。

主要な構成種は、T₁層はヒノキ、ツガ、コウヤマキ、ウラジロモミ、ヒメコマツ、T₂層はアケボノツツジ、ダイセンミツバツツジ、シャクナゲ、ヤマグルマ、S層はヒカゲツツジ、ベニドウダン、アクシバ、クロソヨゴ、アセビ、シャクナゲ、H層はイシヅチザサ、アサマリンドウ、シコクママコナ、ヤマソテツ、シシガシラ、シノブカグマ、M層はコウヤコケシノブ、ホソバコケシノブ、地衣類、等である。

県内には、石鎚山脈、赤石山脈に小規模な群落があるにすぎない。

これらのヒノキ群落は、国有林、自然公園内であるため、保全は十分である。

7 アカシデーイヌシデ群落

夏緑高木ないし亜高木林

中間温帯林で適湿の傾斜地。

主要な構成種は、T₁層はアカシデのほかイタヤカエデ、ツガ、フサザクラ、ミズキ、T₂層はツガ、アセビ、アカシデ、ノリウツギ、ヒサカキ等多種、S層はシロダモ、コックパネウツギ、ネジキ、イヌツゲ、コゴメウツギ、クロモジ、

H層はテバコモミジガサ、ヤマシロギク、キンミズヒキ、フユイチゴ、イノデモドキ、クマワラビ、シシガシラ等多種、M層は蘚苔類、等である。

県内では、ブナクラス域のスズタケ-ブナ群団の下方からヤブツバキクラス域の低地林まで各地にある。

伐採される可能性が大きい。

8 シキミーモミ群集

常緑針葉高木林

海拔500 mぐらいから 1,000 mぐらいで、谷に向う適湿ないしやや湿気のある傾斜地。

主要な構成種は、T₁層はモミのほか、ツガ、T₂層はシキミ、シラキ、モミ、ツガ、ヒメシャラ、ツリバナ、S層はシキミ、クロモジ、ムラサキシキブ、ハイノキ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、H層はツルシキミ、サワダツ、イワガラミ、ツタウルシ、マルバフユイチゴ、カンスゲ、ジュウモンジシダ、M層は蘚類、等である。

県内各地に小規模のものがあるが、よく発達したものは石鎚山脈の低部にあ

る。

将来伐採される可能性が大きい。

9 コカンスゲ-ツガ群集

常緑針葉高木林

中間温帯林で、谷に向う斜面、やや湿気のある地、海拔 1,200 mぐらい。

主要な構成種は、T₁層はツガのほかにモミ、ブナ、T₂層は少しのシキミ、ケクロモジ、S層はケクロモジ、スズタケ、H層はコカンスゲ、カンスゲ、ツルシキミ、ガクウツギ、シロモジ、ヤブムラサキ、ツタウルシ、M層は蘚苔類、等である。

県内には、この群集は少なく、石鎚山下部の調査地に典型的なものが見られる。

石鎚山以外では伐採される可能性が考えられる。

10 サカキーウラジログシ群集

常緑広葉高木林

海拔900 mぐらいから1,100 mぐらいの一般にN方向に多く、空中湿度の大きい地域。

主要な構成種は、T₁層はウラジログシ、アカガシ、コジイ、リョウブ、T₂層はイスノキ、ヤブツバキ、サカキ、S層はハイノキ、アセビ、イヌガシ、ホソバタブ、H層はヤブコウジ、シキミ、ツルリンドウ、キッコウハグマ、キジノオシダ、ベニシダ、シシガシラ、マメヅタ、ジュウモンジシダ、M層は蘚苔類、等である。

県内では、南部の篠山、滑床方面に大群落が広範囲にあり、石鎚山脈には小群落がある。

伐採可能な地域である。

11 タブ群落

常緑広葉高木林

県南部海岸地帯、島しょ部の山腹の斜面に多く、時に山頂部及び稜線にも見られ、適湿の地。

主要な構成種は、T₁層はタブノキ、ホルトノキ、モチノキ、タイミンタチバナ、T₂層はタイミンタチバナ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ヤブニッケイ、イヌビワ、S層はヤブニッケイ、イヌビワ、ヒサカキ、ヤブツバキ、シロダモ、H層はフウトウカズラ、ヤブコウジ、テイカカズラ、ノシラン、ムサシアブミ、ホソバカナワラビ、オオイタチシダ、等である。

なお、この群落の中に入るものにビロウ群落があるが、T₁層はビロウのほか、タブノキ、モチノキが多い。

県内では、南部の海岸地帯、島しょ部に小規模のものが多く見られ、また、半島の海岸線に沿って点々と断続単生している。

重要な有用材でないから伐採の可能性は少ない。

12 ウバメガシ群落

常緑広葉亜高木ないし高木林

海岸の急斜面のがけ地に多いが、時に稜線上又は緩斜面のやや乾いた所。

主要な構成種は、T₁層はウバメガシ、タイミンタチバナ、マツ、T₂層はウバメガシ、モッコク、タイミンタチバナ、トベラ、モチノキ、S層はウバメガシ、トベラ、タイミンタチバナ、マサキ、オンツツジ、H層はヤブコウジ、コウヤボウキ、ツワブキ、ヤブラン、ススキ、ヒトツバ、オオイタチシダ、等である。

なお、これに入れるべきものに、オニヤブソテツ―ハマビワ群落がある。

県南部の海岸、島しょ部に普通で、中部、東部の島しょ部にもあるが、時に内陸奥深く入っていることがある。

ウバメガシ群落の多い地域のマツが松枯病によって全滅している現在、ウバメガシ群落は景観上貴重な存在である。なお、これを薪炭用としない今日、伐採の可能性は少ないが、庭木用として盗採されることがある。

13 コウヤマキ群落

常緑針葉高木林

海拔800 mぐらいから1,500 mぐらいの稜線又は緩斜の地。

主要な構成種は、T₁層はコウヤマキ、ツガ、ヒノキ、ヒメコマツ、T₂層はアケボノツツジ、アセビ、ベニドウダン、ヒメシャラ、タンナサワフタギ、S層はアケボノツツジ、アセビ、リュウブ、コックパネウツギ、コガクウツギ、H層は、ミヤコザサ、イヌツゲ、ホウチャクソウ、キッコウハグマ、シハイスミレ、シノブカグマ、ヤワラシダ、M層は蘚苔類、地衣類、等である。

なお、この群落に入れるべきものにハリモミ群落がある。篠山ではコウヤマキ群落に隣接し、T₁層にコウヤマキを介在する。

県内には、コウヤマキ群落はあまりない。篠山では大群落をつくっているが、石鎚山、面河山の場合は小群しかない。

篠山のコウヤマキ群落（コウヤマキ林，ハリモミ林）は，景観上，この山を特徴づけている貴重な一要素である。また，ここは特別地域に指定されており，一本松町では自然保護のため，専任の職員を配置している。

14 クヌギーコナラ群集

夏緑高木ないし亜高木林

低地より海拔 1,000 m ぐらいまでの斜面，平地の樹林。

主要な構成種は， T_1 層はクヌギ，コナラ，アカシデ，ミズキ， T_2 層はクヌギ，コナラ，アカシデ，リョウブ，アセビ， S 層はヒサカキ，アセビ，ヤブムラサキ，コバノガマズミ，コバノミツバツツジ， H 層はヤブコウジ，コウヤボウキ，フユイチゴ，テイカカズラ，シラヤマギク，ツワブキ，ヒカゲスゲ，ナキリスゲ，ノガリヤス，シシガシラ，ワラビ，コシダ， M 層は蘚類，等である。

県内各地にあり，南部中部に多く，東部には少ない。かつて薪炭用林であったが，現在放棄されている。

薪炭材としての必要性はないが，しかしシイタケ原木用として伐採が盛んに行なわれ，原木の不足を来したので，伐採後の萌芽又は苗木栽植によって，その成長が期待されている。

15 シイ・カシ萌芽林

常緑広葉亜高木ないし高木林

低地，低山の斜面，適湿ないしやや乾いた所。

主要な構成種は， T_1 層はコジイ，アラカシ， T_2 層はコジイ，アラカシ，ヤブツバキ，ヤブニッケイ，タイミンタチバナ，サカキ， S 層はアラカシ，ヤブツバキ，ヒサカキ，コジイ，ネズミモチ，イヌビワ，ヤマウルシ， H 層はフユイチゴ，ササクサ，ナキリスゲ，コヤブラン，ヤブコウジ，ヒトツバ，ベニシダ，ウラジロ， M 層は蘚苔類，等である。

県内各地にあるが，殊に南部中部に多く，海岸，川岸のがけ地又は社寺林に残されていることが多い。

現在は薪炭用としないから、おそらく将来も伐採される可能性は少ないであろう。

16 ササ・タケ群落(メダケ)

低木ないし亜高木の群落

島しょ部、低地の海岸、川岸及び山腹斜面をおおって密生している。

主要な構成種は、 T_2 層はメダケ、これにからみ上がるビナンカズラ、クズ、カミエビ、ヘクソカズラ、 S 層はメダケ、 H 層はイタドリ、スイカズラ、ネズミモチ、ヤブコウジ、クズ、チガヤ、ベニシダ、等である。

県内各地の低地に普通であるが、時に川をさかのぼって海拔600 mに達する場合もある。

メダケは小群落又は大群落の一部が、常にどこかで開花しているが、いっせいに開花枯死をしないから、絶滅することはない。

17 オンツツジーアカマツ群集

常緑針葉高木林

低地より海拔1,000 mぐらいまで。山すそから山頂、稜線、斜面まで。

主要な構成種は、 T_1 層はアカマツ、クロマツ、 T_2 層はオンツツジ、ヒサカキ、ヤマウルシ、コナラ、ナツハゼ、 S 層はオンツツジ、ヒサカキ、カマツカ、コバノガマズミ、コックバネウツギ、 H 層はコウヤボウキ、テイカカズラ、ヤブコウジ、ススキ、シュンラン、ヘクソカズラ、アキノキリンソウ、ワラビ、ウラジロ、コシダ、ベニシダ、 M 層は蘚苔類、等である。

県内各地、殊に東部と南部に多く、中部に少ない。

クロマツ林に続く松枯病のため、アカマツ林の絶滅した部分は非常に多く、国定公園内の景観に大変化をもたらしたが、松林に代って常緑広葉樹が繁殖しつつあり、今後の遷移が注目される。

18 コバノミツバツツジーアカマツ群集

常緑針葉高木林

低地より海拔 1,000 m ぐらいまで。山すそから山頂、稜線、斜面まで。

主要な構成種は、T₁層はアカマツ、クロマツ、時にネズミサシ、T₂層はアカマツ、ネズミサシ、ヒサカキ、カマツカ、ヤマウルシ、S層はコバノミツバツジ、ヒサカキ、カマツカ、ナツハゼ、コナラ、H層はアキノキリンソウ、ニガナ、ヒヨドリバナ、ヤブコウジ、ススキ、ネザサ、ワラビ、コシダ、オオイタチシダ、M層は蘚苔類、地衣類、等である。

県内各地、殊に中部に多く、東部と南部に少ない。

クロマツ林に続く松枯病のため、アカマツ林の絶滅した部分は非常に多く、国定公園内の景観に大変化をもたらしたが、松林に代って常緑広葉樹が繁殖しつつあり、今後の遷移が注目される。

19 クロマツ群落

常緑針葉高木林

海岸地帯から平地、低山下部の斜面。砂浜から肥沃土壤まで。

主要な構成種は、T₁層はクロマツ、アカマツ、T₂層はクロマツ、ハゼノキ、クロガネモチ、ヒサカキ、ネズミサシ、S層はヒサカキ、ネズミモチ、トベラ、ヤマウルシ、ハゼノキ、シャシャンボ、アカメガシワ、H層はヒサカキ、ヤブコウジ、コウヤボウキ、ススキ、イタドリ、ヤマシロギク、アキノキリンソウ、ツワブキ、コヤブラン、ワラビ、コシダ、等である。

県内各地の海岸砂浜及び断崖地から低山、又河川兩岸の並木として存在するものが多い。

松枯病の被害は大きく、本県への侵入は三崎半島西端からであるが、現在半島の西半はほとんど松林を残さない惨状で、景観に大変化をもたらした。天然記念物、名勝の松も順次枯死しつつあるが、しかし、保護対策が十分であったため、今なお健在を誇っているものもある。

20 クズ群落

この調査地のクズ群落は県南部半島部の段畑などの耕作地が放棄された跡に繁殖をたくましゅうしたもので、クズがからみ上る上層木のない群落である。

海辺の陽地，強風，急傾斜の地。

主要な構成種は，S層はクズ，クサマオ，H層はオオイタビ，ヨモギ，セイタカアワダチソウ，オオアレチノギク，メドハギ，もと土止めに使ったシナダレスズメギヤ等である。

県内南部地域の半島，島しょ部に多く，主として休耕又は放棄畑であるが，別にクロマツ，アカマツが枯死全滅した跡のクズ群落も時に見られる。

クズの繁殖を放置すれば自然景観を損うこと大きく，又防除絶滅の困難な種類であるから，将来クズ公害をもたらすことも考えられる。

21 ハママツナーハマサジ群落

塩田跡の塩沼性群落

廃塩田がそのまま放置されてすでに長く，その地面に自然発生した本群落である。

群落構成種は，H層のみで，ハママツナ，ハマサジ，ハマホウキギ（イソホウキギ）を主とし，ホソバノハマアカザ，ホウキギク等がある。

県内東部の新居浜市，伯方町などにわずかに残っている廃塩田又は海岸，河口の塩沼地にこの群落がある。

廃塩田も年を経るとともに，漸次周辺部の雑草，例えばツルヨシ，アキノウナギツカミ，キツネギヤ，ホウキギクのような種類が侵入し，増加する傾向がある。

22 砂丘植生

砂丘植生の群落は各種あるが，別紙調査表は，ハマユウーハマグルマ，ハマゴウーノジギク，ハマゴウ群落の調査結果である。

本県の砂丘植生の主要な構成種は次の通りである。

S層はハマゴウ，ハチジョウススキ，メマツヨイグサ，H₁層はハマゴウ，ボ

タンボウフウ、ノジギク、ハマナタマメ、ハマダイコン、マルバアカザ、ハマナデシコ、アメリカネナシカズラ、テリハノイバラ、ノブドウ、コマツヨイグサ、ハマユウ、ケカモノハシ、メヒシバ、ハマエノコロ、キンエノコロ、H₂層はツルナ、オカヒジキ、ハマボウフウ、ハマヒルガオ、ハマニガナ、ハマエンドウ、ハマグルマ、オニシバ、ビロウドテンツキ、ハタガヤ、等である。

砂丘植生はかつては県内各地の海浜に分布していたが、それらは各種の開発によって消滅し去り、現在わずかに残されている植生も著しいものはない。

今後ともなお、各種の開発、護岸、改修等の工事のため、漸次破壊されていくであろう。

23 スギ・ヒノキ植林（スギ）

常緑針葉樹植林

一般に山のNW～N～NE方向に多く、適湿ないしやや湿気のある肥沃の地。

主要な構成種は、T₂層はヤブツバキ、シロダモ、ケヤキ、ヤマウルシ、S層はネズミモチ、シロダモ、イヌガヤ、イヌビワ、コバンノキ、コガクウツギ、ナガバモミジイチゴ、イワガラミ、コアカソ、ウド、H層はフユイチゴ、マルバフユイチゴ、キヅタ、モミジガサ、イノコヅチ、ミズヒキ、アキノタムラソウ、ホウチャクソウ、タガネソウ、ナルコユリ、ジャノヒゲ、リョウメンシダ、シシガシラ、ジュウモンジシダ、ヤブソテツ、ミゾシダ、クマワラビ、ベニシダ、等であって、県下全体のスギ植林には、下層植生の種類が極めて多く、枚挙にいとまがない。

23 スギ・ヒノキ植林（ヒノキ）

常緑針葉樹植林

一般に山のN方向のほか、E～S～W方向にも植林されている。

主要な構成種はスギ植林と大差はなく、極めて多くの種類があり、枚挙にいとまがない。

24 落葉広葉樹植林

ソメイヨシノ栽植の植生一例をあげる。

主要な構成種は、T₁層はソメイヨシノ、T₂層はメダケ、S層はヤダケ、メダケ、H層はクス、ヨモギ、カタバミ、コヤブラン、ナキリスゲ、ノガリヤス、ススキ、等である。

ソメイヨシノの栽植は県内各所にあり、平地から低山地、低山地帯の道路、公園など。

天狗巢病により枯死するものが時々ある。

25 モウソウチク林

モウソウチク林

山村の山すそ、低山の斜面。

モウソウチク林の構成種は、T₁層はモウソウチク、H層はイノコヅチ、ヤブマメ、クサマオ、ヒヨドリジョウゴ、ヤブタビラコ、ヤマハコベ、ツルリンドウ、ヌスビトハギ、コナスビ、カテンソウ、イタドリ、クサイチゴ、ヒガンバナ、コチジミザサ、ジャノヒゲ、コヤブラン、キツタ、シロダモ幼木、等である。

26 常緑果樹園（ミカン）

常緑低木のミカン畑

丘陵、低山の斜面及び平地の畑である。

ミカンは低木で、大体2 mぐらい、枝葉は非常に低く、地上20cmまで下がることがある。

ミカン畑の地面は除草が十分行われている場合と、雑草の繁植がそのままになされている場合とがある。

雑草の主なもの、ヤエムグラ、ヨモギ、スズメノエンドウ、カラスノエンドウ、コハコベ、ウシハコベ、ホトケノザ、シロツメクサ、ムラサキカタバミ、スズメノカタビラ、等である。

ミカン園は県内各地域にあり、普通は海岸近辺から海拔200 mぐらいまでであるが、ときに350 mまで、また、最高は600 mに小規模ながら栽培されている。

本県のミカンは主としてウンシュウミカンで、次いでナツカン、イヨカンで

ある。本県のミカン類の産出額は全国第1位であるが、近年減反の方針により、栽培面積が減らされつつある。

27 落葉果樹園（ブドウ）

落葉低木のブドウ畑

この調査地のように低山の山すそ利用の畑と、平地の畑の場合とがある。

この一例のブドウ畑は除草が十分ではない。ブドウ畑によっては除草が完全に行なわれている場合もある。

県内にはブドウ畑は極めて少ない。

28 畑地雑草群落

この調査は時期的には遅きにすぎたきらいがある。しかし、夏季は畑作の最盛期であるから除草がなされており、かえって調査の目的が果されないとも考えられる。

今回の調査は、畑作後畑面の放置された状態の雑草植生である。

主要な構成種は、コハコベ、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、スズメノエンドウ、カラスノエンドウ、ヤエムグラ、ヨモギ、タネツケバナ、スズメノカタビラ、等である。

なお、畑地雑草は各地、各季によって差異があるはずであるが、本県では一般に、①四季による差異、②内陸部が半島・島しょ部か、③山村か平地部か、④広大な畑作地帯か集落附近か、⑤前作収獲後の放置された畑か休耕畑か、等によって雑草植生はかなり異なるものと考えられる。

29 牧草地

牧草地の植生

ここにあげた一例は海拔700 mのものである。

主な構成種は、ヒロハウシノケグサ、オオアレチノギク、ヨモギ、ススキ、シロツメクサ、ヒメスイバ、ヤマアザミ、等であるが、その他に多数の種類がある。

なお、この牧場の上方にはアカシデーイヌシデ群落があり、また、このうち一部にはスギ、ヒノキの植林が介在している。

30 ゴルフ場

ゴルフ場の植生

このゴルフ場は海拔100 mから150 mにある。

調査の群落は単純であって、植栽のシバを除く雑草は種類少なく、DSも極めて小さい。

31 水田雑草群落

この調査は時期的には遅きにすぎたきらいがある。しかし、夏季は稲作の最盛期であるから除草がなされており、かえって調査の目的が果されないとも考えられる。

今回の調査は一例にすぎないが、稲作収獲後放置された状態の雑草植生である。

主要な構成種は、ノミノフスマ、レンゲ、スズメノトウガラシ、ツメクサ、トウバナ、オランダミミナグサ、スズメノカタビラ、マツバイ、等である。

なお、水田雑草は各地、各季によって差異があるはずであるが、本県では一般に、①四季による差異、②内陸部か半島・島しょ部か、③山村か平地部か、④広大な水田地帯か集落附近か、⑤稲作収獲後の放置された水田か休耕田か、等によって雑草植生はかなり異なるものと考えられる。

32 市 街 地

33 公 園

34 工 場 地 帯

35 造 成 地

36 開 放 水 域

37 自 然 裸 地

38 廃塩田（ハママツナーハマサジ群落）

これは表示番号21の3調査のうち、越智郡伯方町瀬戸浜の2調査と同じものであるが、ここでは廃塩田の植生として記録する。表示番号21の解説を参照されたい。

5 資料リスト

当調査はすべて現地調査を行ったので、特に挙げるような文献・資料等はない。

6 調査担当者名簿 (愛媛)

番号	氏 名	所 属	分 担 分 野
1	山本 四郎	今治明德短期大学	総括責任者 (愛媛県全体)
2	石川 早雄	新居浜市立中萩小学校	愛媛県東部
3	藤田 幹雄	愛媛県立今治北高等学校	〃
4	須山 修光	松山市立湯山中学校	愛媛県中部
5	土居 泰正	大洲市立新谷小学校	〃
6	中本 司	松山市立津田中学校	愛媛県南部
7	松井 宏光	松山東雲短期大学	〃

第 2 回 自然環境保全基礎調査
植 生 調 査 報 告 書

昭和 55 年 3 月 31 日

編 集

愛 媛 県

環境庁委託調査

